ルポルタージュ

名もない人びとのさまざまな歳月

キムチの匂う街

永井萠二 著

太平出版社 刊

筆者紹介

永井　萠二（ながい ほうじ）　1920年東京に生まれる。1944年早稲田大学文学部卒業。敗戦後、46年朝日新聞社入社。以後、『文芸朝日』副編集長、「朝日新聞」編集委員を歴任。日本ペンクラブ会員。現在、聖徳学園短大で児童文学を講義している。おもな著書に『雑草の歌』『焼け跡は遠くなったか』などのほか、児童書に『ささぶね船長』『サンアンツンの孤児』など多数ある。

ルポルタージュ　キムチの匂う街

1979年7月14日　第1刷発行　　¥1300

著　者　永井　萠二
発行者　東京都千代田区神田神保町1-46　崔　容徳
印刷者　東京都文京区後楽 2-11-2　道野整版所

発行所　東京都千代田区神田神保町1-46-2　美成社ビル
株式会社　太平出版社 ©
電話 03-295-3531(代表)　振替東京1-99563

落丁・乱丁本はおとりかえいたします

ルポルタージュ

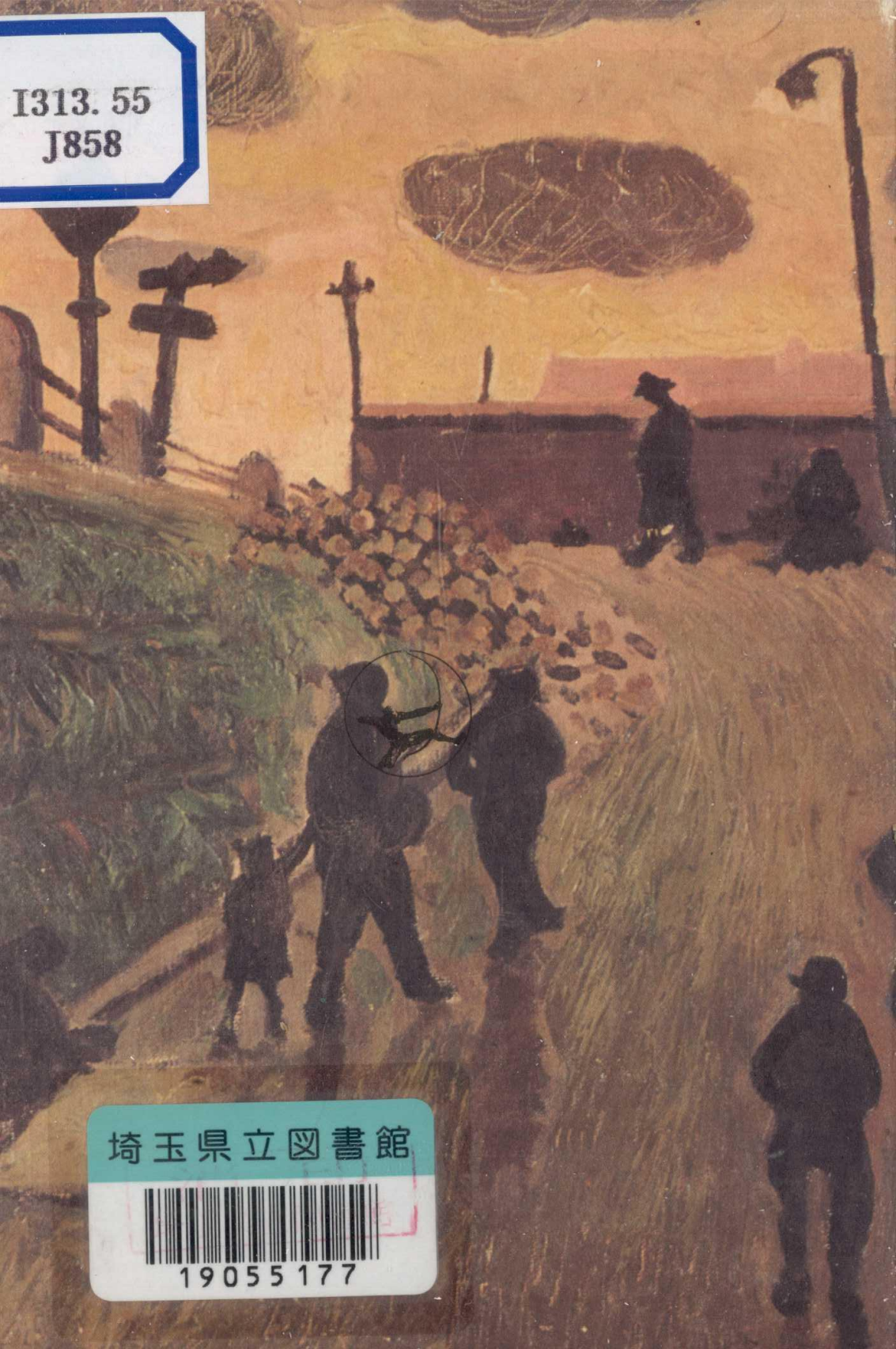
名もない人びとのさまざまな歳月

キムチの匂う街

永井萠二 著

太平出版社 刊

I313. 55
J858



埼玉県立図書館
19055177

日文 701744817

ルポルタージュ

名もない人びとのさまざまな歳月

キムチの匂う街

小井萠二 著

太平出版社 刊

D13255

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目次

I ……15

1 ルンペンとともに一週間——上野地下道の生態 ……16

やっと見つけた寝場所20　兄さん、買わねえか？23　息づまる悪臭と熱気25　ノガミでの第二夜……27　引揚孤児の節ちゃん30　シャバが恋しくなった33　おとなにだまされるなよ！35　アナグラ人生のトピックス37　ドン底から立上る努力39

2 夜ひらく花——ラクチョウ・ノガミ・ジュクの夜の「天使たち」 ……43

ラクチョウのパンパンたち46　身体をはるにはもとでがいる47　ガード下がノガミの花道50　ジュクの女たち53

3 新宿解剖図——ある戦災都市の「復興」の生態 ……56

アロハを着た「ジュク」の町58　ボスたちの系譜60　退廃のあやしい魅力63　ドヤ街の女たち65　新宿の未来68

4 「馬五郎一座」奥の細道をいく——街にも村にも演劇を ……70

東北地方巡演の旅71　先発隊のはたらき72　「泥かぶら」と真山美保75　新制作座の大ファン78　つぎの公演地への移動日80　「盛岡に恥をかかさないで……」82　まじめな観客たち85　仕事はとってもくるしいが……86

5 日本のチベット——北上山脈の農民たち……89
まったく、ひでえ土だ90　石ころだけがならぶ墓92　ランプもない「焼子」の生活93　辺地教育の現実を見る95

II ……99

6 筑紫路をいく旅役者——チャンバラ一座に哀歓あり ……100
数少ない純劍劇団103　外題の数は三百以上104　女形あがりの「おばさん」106　フィナーレはエレキギター107　「フジコ」のイレズミ109　「入るかな、入らんかな」110　姿かたちはヤクザでも112　ひとりで何百も役をこなす113　家具に残る旅の傷あと115　雑草の強さとかなしさ117

7 伝統を支える三河万歳——「変わる世相に変わらぬ音色、三河万歳打つ鼓」……120
消えた「笑いと福の使者」120　歌い文句は現代調123　「すきな道はやめられぬ」125　古きよき時代の話126　とにかく後継ぎを128

8 瀬戸内海の漂海民——「吉和家船」のジプシー生活 ……130
ヨモオジという男131　漁はまあバクチと同じ……132　晩酌のさかなにタイを釣る136　「水も買うてる生活だ……」138　仲買人に買いたたかれる141　苦労するのも因縁じゃろう142　オカッパの少女トシちゃん143　鉄筋五階建の漁村アパート145　漂海民の新しい歴史の芽ばえ147

9 一本のモリに生きる海の男たち——駿河湾沖のカジキ突き漁同乗記……150

魚族きっての暴れん坊151　ヤツら、うめえもんだ153　大物と一三時間の死闘154　オカでは大さわぎ156　ツキンボ台でひるね157　三人の願いで「三和丸」159　素朴な人情と親切160　メカジキを取逃がす！162

10　マグロ一本釣りに生きる男――津軽海峡での一〇日間……165

オンツァのじまん話166　むかしはアワビつきの名人168　力と鋭いカンのマグロ一本釣り170　かかった！　銀青色の大魚172　船と大漁旗にうまる海の祭174

11　おっかあと半年会えなぐなる――東北の出稼ぎ地帯をいく……177

「カゼをひがねよに」178　農業生産はアダマぶち179　借金返済が精一杯180　出稼ぎの歯どめに183　機械の月賦に追われる184　辺地ゆえの格差拡大186

Ⅲ……189

12　猪飼野・キムチの匂う街――「日本の中の朝鮮」に見る希望と悲しみ……190

せんない事情で住んでんねや191　事件の数は多い192　金さんの暗い悲しい半生193　ひとつの朝鮮に……195　ふしぎな活力を秘めた町196　いたるところに三八度線197　帰化したって「新日本人や」199　「チョゴリ」が制服の学校202　イデオロギーより暮らしが203　「金日成将軍の歌」をうたって206　李少女の嘆きと希望207　ツロボリジャ！208

補遺　猪飼野ルポをふりかえって――「日韓新時代」は問題を解決したか……209

「日本の中の朝鮮」で209　生活の底をながれるもの211　ルポの反響213　朝鮮の少

女からの手紙 215　韓国ルポの旅で 218

13 日韓親善と貧富と街の子と——ソウル－慶州「人情旅行」……221
ソウル市の年の暮れ 223　親善と警戒のからんだ空気 224　子どもだけは大学に… 226　古都慶州で考える 228

14 凍原（ツンドラ）から満蒙開拓の花帰る——鈴木五三美さんの二二年……231
胸の中にしまっていた日本語 232　読書分村の悲惨な結末 233　中国人に救われる 235　母ちゃんは必ず戻ってくる 237

IV ……239

15 さまざまな人生にふれた歳月——流浪記者の旅日記……240
三味線と桜色の貝 241　アボジ…… 242　いつまた会えるかのう 244　まず人間を見つめる 246　人間のドラマをさがして 247　原爆ドームの見える町で 249

あとがき……永井　萌二 252

装幀＝粟津潔　編集＝長津忠

原书空白

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

原书空白

原书空白

原书空白

原书空白

原书空白

I

1946年1月　敗戦直後の上野地下道を浮浪者姿で7日間取材したときの著者（本文16ページ参照）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com